

蛾から卵を採取する蚕種業と、蚕が繭になるまで飼育する養蚕業と、繭から生糸を製造する製糸業の三つをまとめて蚕糸業といいます。蚕から生糸をつくっていく工程をみていきましょう。

繭切り・雌雄鑑別(蚕種)



羽化・交尾(蚕種)



産卵(蚕種)



乾繭・貯繭(製糸)



収繭(養蚕)



給桑・除沙(養蚕)



煮繭(製糸)



繰糸(製糸)



揚返(製糸)



出荷(製糸)



蚕種 繭切り・雌雄鑑別



蚕は繭の中で蛹となり、蛾になる準備ができると繭から出てきます。その前に、蚕種を得るためには、まず繭切りをして、繭から蛹を出します。蛹の段階でオス・メスの鑑別をします。その後、品種別、オス、メス別に蛹体保護をします。

蚕種 発蛾・交尾



蛹は脱皮をして蛾になります(オスはメスより一日早く蛾になる)。産卵台紙の上に雌蛾を整然と乗せて、その上から雄蛾をまぜていくと交尾が始まります。時間がたつとオスとメスを離します。(割愛)オス蛾を再び交尾に使うときもあります。

蚕種 産卵



交尾の後、数時間するとメス蛾は糊びきした特性の産卵紙の上に400～500個ほどの卵を産みます。卵は温度調整などをして保護し、翌年の孵化にそなえます。

養蚕 給桑・除沙



蚕は通常、桑を食べて成長します。上手に食べのこした桑やフンは蚕網を使って取り除きます。養蚕農家は蚕が病気にならずいい繭ができるように温度や湿度にも気を配りました。

養蚕 収繭



蚕が糸を吐き始め、繭をつくる準備ができたなら簇に移すと、繭作りを始めます。尿や体液などで汚れず、形のよい繭ができるように回転簇が使われるようになりました。

製糸 乾繭・貯繭



養蚕農家から運ばれてきた繭は、蛾が繭から出てきて穴を開けないように、またカビなどが出ないようにするために、乾燥させて蛹を殺して長期間保存できるようにし、繭倉で貯蔵されます。

製糸 煮繭



繭から生糸をとるためには、まず湯で繭を煮て、繭糸のほぐれをよくします。一つの繭から、品質がよい生糸をできるだけたくさんとりたい製糸家にとって、煮繭は大切な作業でした。

製糸 繰糸



繭を煮たら、一つの繭から一本ずつ糸を引き出し、それを数本集めて一本の糸にし、しっかりと抱合して生糸とします。この作業を繰糸といいます。

製糸 揚返



繰糸を終えた小枠をそのままにしておくと糸がくっついてしまいます。そのため小枠から生糸を乾燥させながら大枠に巻き直します。

製糸 出荷



大枠から糸を外し、ねじりを加えたかせにしたり、糸が乱れないように紐でしばって、整えて出荷をします。